

■ソフト対策

1. 多機関連携型タイムラインの運用
2. まるごとまちごとハザードマップ実施
3. 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成の促進・避難訓練の実施
4. 広域的な避難の必要性の検討
5. マイ・タイムラインの作成支援

■ハード対策に関する事務所の方針確認

6. 浸透対策、パイピング対策、流下能力対策の実施

1. 多機関連携型タイムラインの運用

- 天神川水害タイムライン検討会では、令和3年度に運用を踏まえたアンケート調査を実施し、この結果を踏まえた①タイムライン詳細版、②タイムライン総括版の見直し、③運用支援システムの改良を実施している。
- 令和4年度の出水期を目途に、令和4年度の運用について説明するためのタイムライン検討会を開催する。

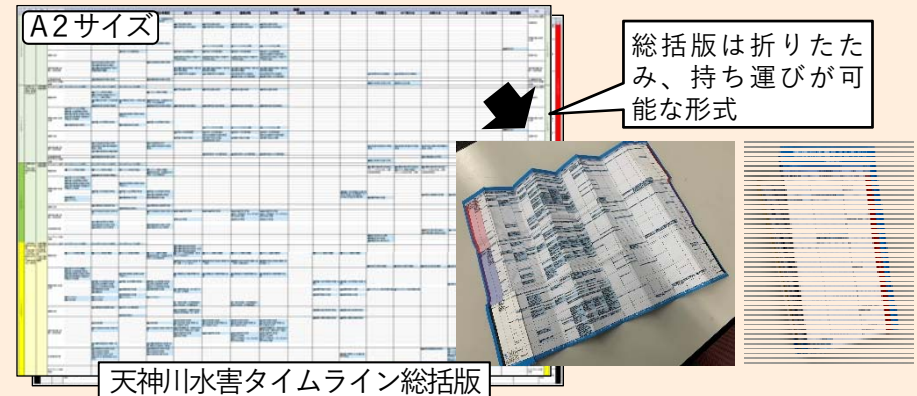
「いつ」
・防災行動を行うタイミング (TLレベル毎に発表情報や状況を整理)

「誰が」
・担当機関の防災行動の役割を表示
◎：主体的に行動する機関
○：支援または協働する機関

「何をするか」
・行動は、階層別に記載
・既存の防災計画等と整合性を踏まえて防災行動を整理

多機関連携型タイムラインのイメージ

②総括版：班長等が俯瞰的に作業の漏れがないかを確認できるタイムライン（水位上昇が早い天神川でも、短時間で最低限実施すべき内容がチェックできる）



①詳細版：担当者が詳細な対応を確認できるタイムライン

A3サイズ

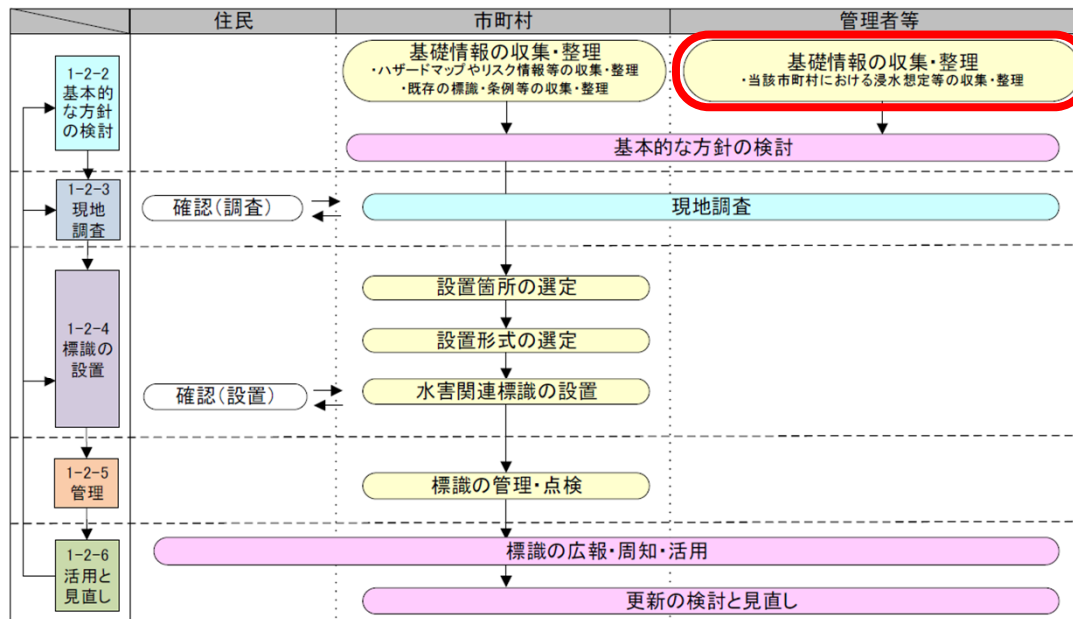
天神川水害タイムライン詳細版

③タイムライン運用支援システム：タイムラインに必要な防災情報を集約したシステム



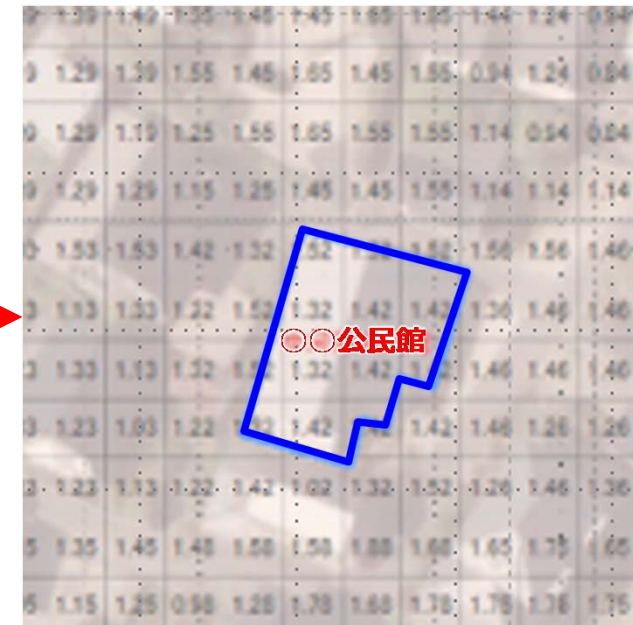
2. まるごとまちごとハザードマップの実施

- 倉吉市では、令和2年よりまるごとまちごとハザードマップの設置を実施しており、令和4年度から自主防災組織による標識設置に補助金を支給することとなっている。
- 湯梨浜町においても、令和4年度に、公共施設にまるごとまちごとハザードマップの標識設置を検討する予定である。
- 各市町の標識作成にあたり、倉吉河川国道事務所では、洪水浸水想定区域図の浸水深の確認等の支援を実施する。



- 単独実施 : 該当する関係機関がそれぞれ単独で実施する項目
- 分担実施 : 市町村が管理者等と連携しつつ実施する項目
- 共同実施 : 関係機関が共同で実施する項目

実施フロー詳細図 (まるごとまちごとハザードマップ実施の手引き第2版 P5)



設置予定箇所の浸水深の確認

3. 要配慮者利用施設の避難確保計画の作成の促進・避難訓練の実施

- 令和元年度より、2021年（令和3年）度までに要配慮者利用施設の避難確保計画作成及び訓練実施を完了するため 取組を加速している。
- 令和3年度の天神川流域市町の要配慮者利用施設においては、避難確保計画の作成数は増えており、未作成の施設においては、継続的な避難確保計画の作成支援をお願いする。また、避難確保計画に基づく訓練については、実施できていない施設もあり、全国事例等も参考に支援のご協力をお願いします。



施設ごとの計画は作成しており、避難場所もわかっているが、計画通りにならないことが起きることがよく分かった。

要配慮者利用施設における避難確保計画の訓練（松原市の事例）

避難訓練の実施結果を踏まえた非常災害対策計画の見直し

非常災害対策計画を作成した後、避難訓練を実施し、計画を見直した。
▶ 平成29年10月20日の避難訓練には、長期入所者29名のうち、体調の良い24名が参加した。

施設の玄関先にて
避難場所の車寄せ付近
避難場所での入所者の乗車の様子
避難場所の1階階段付近
避難場所での2階への移動の様子①
避難場所での2階への移動の様子②
避難場所の2階体育館にて

項目	訓練前	訓練後
指定緊急避難場所での2階への移動補助	2名一組	4名一組 同時に3組が階段で作業することが可能であることを確認
移動時間の見直し（乗車+移動時間）	12分 （乗車2分、移動時間10分）	14分 （乗車6分、移動時間8分）
避難の順番	2階の入所者を1階に降ろし、随時避難場所に移動する	2階への垂直避難に切り替えることも想定して、1階の入所者から避難することとした

今後の課題について
▶ 体調の悪い入所者、短期入所者の避難にかかる時間が検証できていない。
▶ 悪天候や夜間の場合、避難経路の見通しが悪くなること、階段が滑りやすくなること等で時間がかかることが予想される。
▶ 気温の低下等により、避難場所での入所者の健康面が悪化するのを防止するために、搬入する資機材の覆いの毛布の数を更に追加するなど再度検討する必要がある。
▶ 実災害での焦りや不安から計画していた行動ができずに避難に時間がかかった場合や、避難中に避難指示が発令された場合を想定して、水平避難から垂直避難に切り替える訓練も必要である（避難場所の分散）。

131

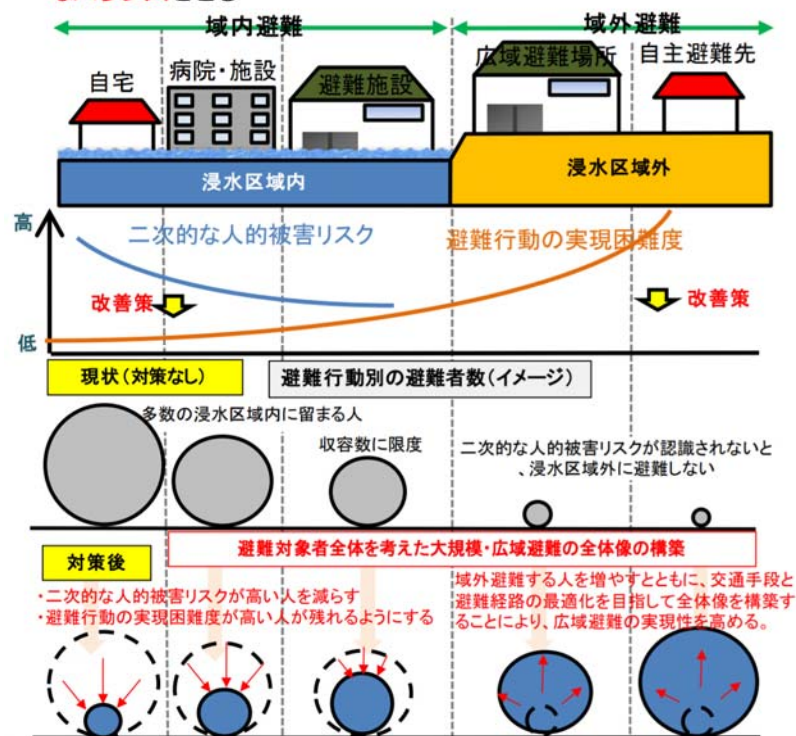
出典：要配慮者利用施設における避難に関する計画作成の事例集（水害・土砂災害）

避難訓練の実施事例

4. 広域的な避難の必要性の検討

- 天神川流域の各市町では、想定最大規模に対する広域避難の必要性について、検討を進めつつある状況にある。
- 今後、鳥取県や各市町と協力して広域的な避難の必要性等について検討を進める。

- 域外避難と域内避難のリスクを比較し、域外避難者と域内避難者の量的なバランスをとる



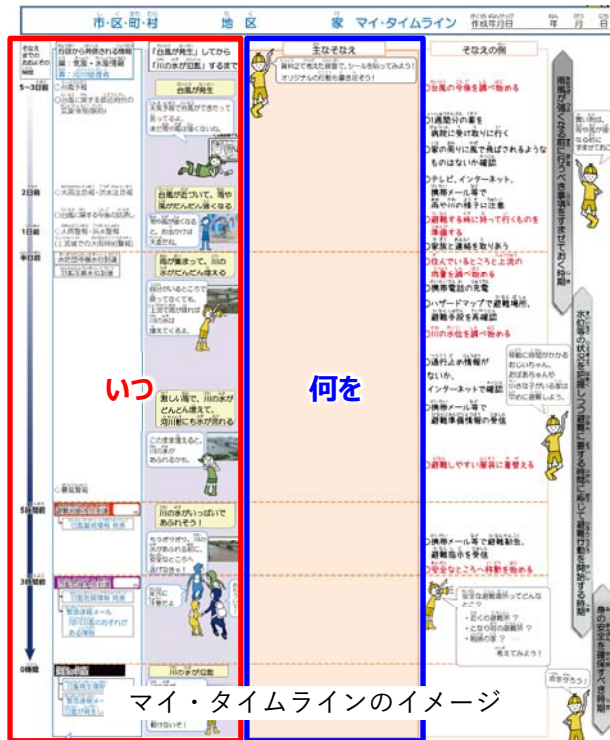
出典：洪水・高潮氾濫からの大規模・広域避難に関する基本的な考え方（報告）

災害時における一時避難場所の協定を結んだ事例

- 三次市「浸水時緊急退避施設の使用に関する協定調印式の開催について」
- 呉市「災害時における一時避難場所としての使用に関する協定」の締結について

5. マイ・タイムラインの作成支援

- マイ・タイムラインとは住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするものである。
 - マイ・タイムラインの作成支援のためのツールとして「逃げキッド」や「マイ・タイムラインかんたん検討ガイド」、「マイ・タイムライン検討のためのワークショップの進め方」などが国交省HPで確認可能である。
- ※令和5年を目途に、全小中学校、自治会で作成支援を実施するようにお願いします。



マイ・タイムラインのイメージ

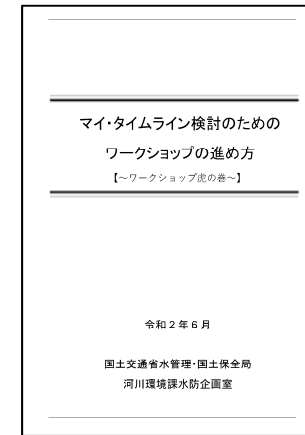
マイ・タイムライン作成支援のためのツール



逃げキッド



マイ・タイムラインかんたん検討ガイド



マイ・タイムライン検討のためのワークショップの進め方

STEP1 あなたの水害リスクを知ろう!
各市区町村が作成している「洪水ハザードマップ」を確認して、自分が住んでいるところのリスクを調べましょう。「マイ・タイムライン作成のためのチェックシート」で、あなたの家の状況を整理しましょう。

STEP2 タイムラインの考え方を知ろう!
河川の氾濫は、地震と違って徐々に危険が増えてくる、ということを確認します。「資料1」で、川が氾濫するまでどのような状況があり、どのような家の状況をたどるのかを学びましょう。

STEP3 マイ・タイムラインをつくらう・つかおう!
ステップ2で定めた防災行動を、時間の経過を考えながら並べて、マイ・タイムラインを完成させるのがステップ3です。行政から発表される気象情報や避難情報、川の水位などをといて、どのタイミングで、どの防災行動をとるのかを考えて、自分だけのタイムラインを作りましょう。

逃げキッドを活用したタイムラインの作成方法解説動画 (YouTube)



動画：岡谷さんのマイ・タイムライン
(<https://www.youtube.com/watch?v=5RgYuFeJoo>)

要配慮者マイ・タイムライン

出典：国土交通省中国地方整備局 高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所HP、YouTube (高梁川・小田川緊急治水対策河川事務所：岡谷さんのマイ・タイムライン) より

6. 浸透対策、パイピング対策、流下能力対策の実施

□ 小鴨川（生竹地区）において、河道掘削や堤防の侵食対策（根固工）等を実施し、早期に安全性の向上を図る。

■ 事業箇所

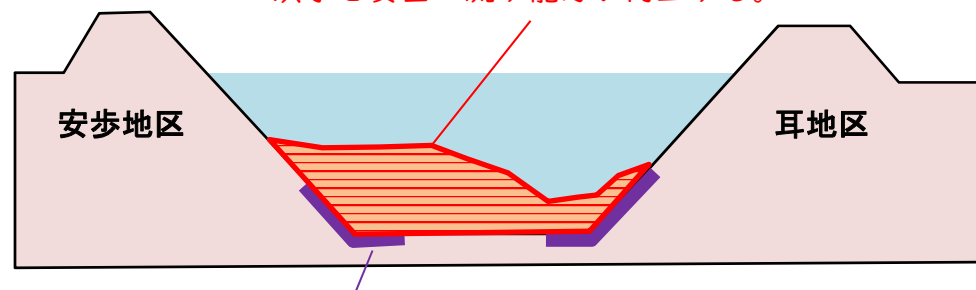
くらしし なまたけ
鳥取県倉吉市生竹地先

■ 期待される整備効果

河道掘削を実施することで、河川整備計画の目標である1959(昭和34)年9月洪水(戦後最大の洪水)が再び発生した場合において、周辺地域の浸水被害の防止が図られる。

【整備イメージ】

河川の断面を広げることにより、
洪水を安全に流す能力が向上する。



根固工等の整備を行い、堤防を侵食されにくくする。

■ 令和4年度事業実施箇所

